

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090300151		
法人名	医療法人岩下会		
事業所名	岩下病院グループホームあじさい		
所在地	群馬県桐生市本町4丁目320番地		
自己評価作成日	H22. 8. 23	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/">http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階		
訪問調査日	H22.9.10		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が病院であり、併設されているので安心して健康管理を行い、適切な医療が受けられる様支援しています。食事は三食手作りをモットーにしています。  
 面会時間などは特に定めず、誰でも都合の良い時間に遠慮無く来て頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

病院に併設されたグループホームであり、利用している家族にも緊急時や健康面での安心感がある。また市街地にあり利用する本人、家族にとって面会しやすく、入所後も今までの生活の延長としての生活環境を継続しやすい。職員は食事を手作りしている。献立は利用者の希望が取り入れられている。食事を通して利用者との関係が築かれ職員の介護能力をも向上させている。野菜は利用者が家庭菜園として作っている。作る楽しみ、食べる楽しみが提供されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護日誌の表紙に大きく掲示し又、玄関靴箱の上に掲げてあり、勤務に入ってくる時に目に触れるようになっていて、全員で共有・実践しています。	理念は職員全員で作成し、職員が見られる場所に掲示されている。管理者と職員は理念を共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会役員さんらにより、行事の案内を頂き、お祭りやお花見に出かけます。又、散歩や日光浴をしている時など病院の外来者などと気軽に挨拶・会話をしています。	近隣からの入居者が多いので町内会の行事などに参加している。自治会長より案内をもらいジャズ、子供みこし、お花見などに出掛けている。病院が併設されているので病院にきた人が面会などに訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	訪問して来て下さるご家族の知人の認知症の人の相談など受けた時は、適切な支援の方法をアドバイスしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年始めには、前年度の活動内容を報告し、それらについて出席者全員で話し合いにご意見を頂いております。それ以降は状況に応じて課題を決め開催しています。	定期的に開催をしている。利用者家族代表、区長、消防関係者等が参加している。ホームからの状況報告、献立評価の結果報告、防災訓練協力依頼などが行われている。議事録は参加しない家族には知らせていない。	休日開催日には行政の参加が無いので、今後は話し合いを行い参加の依頼をお願いしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所へ行く機会がある時は、介護保険担当職員の方に声を掛け話をします。	管理者は電話などで行政と相談している。またケアマネジャーは代行申請に出掛けている。法人としても行政と情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束禁止をモットーとして理解していますが、母体病院の救急出入口と通路が共有の為、玄関の施錠だけはしてあります。	職員は身体拘束に関しての研修を受けている。参加した職員はレポートを提出し、他職員と共有している。病院の救急入り口がグループホームの玄関と共用しているため、救急車到着の際に利用者の混乱が生じる場面があり、玄関に施錠している。	構造上の問題もあるが、鍵を掛けない検討をお願いしたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待にも注意していますが、言葉による精神的虐待には特にその場で注意し防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	難しい問題であり、研修があれば改めてもう一度参加したいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書は契約時きちんと全書面を音読し、説明しています。又、「解らない事があればいつでもご連絡下さい。」と伝えています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に利用者は顔の表情などをよく観察して、いつもとの違いを見極める。又、ご家族の意見など職員とは違う目線での意見を大切に協議する。	家族の声を聞きサービスを選択できるように努力している。オムツ等は家族で用意するか、ホームに依頼するかの選択ができる。食事の試食の希望が出来、お菓子などの持ち込み希望に対しては預かりができる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングを行い、その時意見を聞くようにしている。又、切り出しづらい立場の者は中間者が聞き出すようにしたりしています。	法人内の異動がある。新入職員に対してはきめ細やかに職員が付いて意見や希望など聞いている。管理者は勤務表作成時に職員の休日希望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時々現場に来て利用者と話をしたり、スタッフとの食事会などを設け、親睦を図り意見交換をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度始めに届く、群馬県社協などの研修には、多くの職員が受講できるように、又、母体の病院での研修にも参加する機会を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域施設間での意見交換を実施しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の段階で相談して頂き、スタッフ間でよく把握しその人をよく知り、理解する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が来られた時は声を掛け、困っている事、考えている事などよく聴く機会を作るようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容をよく聴き、当事業所ではどのような支援方法があるのかを考える。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人、その人に合った接し方で信頼関係を作り、不安や楽しみなどを共にし、支え合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	よき相談相手になり、家族の思いと同じように支援していきたいと思えます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者の名前を聞いておき、ご家族に伝え、本人との関係が継続出来るようにしている。	病院に受診に来た人が面会に立ち寄ったりしている。そのときは個人的に話ができるよう配慮している。また、入居前に生活していた場所に出掛けて行ったり、友人宅にお茶を飲みに行ったりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルを起こしたり、孤立化しないよう職員により気分転換を図ったり、利用者同志気の合う人に調整役に入ったりして頂いてる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族にその後の様子などを聞き、スタッフ間でも把握しておく。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話あるいは行動で、その人の思いや考えを導き出し把握する。	職員は普段の会話からその人の意向を汲み取っている。また家族から本人の情報と家族の希望も合わせて聞いている。精神面での支援などにも配慮されている。	ケアプラン作成時には、より本人の意向を汲み取った計画作成を希望する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の方はもとより、面会に来られた親類・知人などからもその方の生活歴などの情報を伝えて頂いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の性格を考え、喜んで自然に出来るように過ごして頂いています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向を聞き、又、本人に出来ない時はご家族らと話し合い、それぞれの意見などを盛り込むようにしています。	管理者、ケアマネジャー、職員は介護計画を共有している。1ヶ月毎のモニタリングを基に随時の見直しと3ヶ月毎の見直しがされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に残し精神的、又は、身体的な気づきを記入しておき、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良の時などは家族に代わり、利用者様を受診にお連れしたり、又、情報を細かく流したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防団員の方に推進委員になって頂き、利用者様に安心して暮らして頂けるように意見交換も行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	精神的に又、体調不良の時など変化のあった時などは家族の方に文書及び口答により医療機関へ連絡をとるよう支援しています。	家族の希望するかかりつけ医となっている。話し合いで協力病院に変更できる。希望者には月に2回訪問歯科が受診できる。協力病院以外は家族受診となっているが、家族が出来ない場合にはホームで支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	系列病院の看護師に相談し、それぞれ適切に受診できるように、そして治療の助言などを受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族の方に電話や立ち寄って下さった時などは様子を聞き、医療機関との情報交換も大切にする。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「緊急時の対応について」や「看取り同意書」を配布、提出して頂いて検討しています。	看取り同意書を作成している。家族の希望があればその都度話し合いを行いながら、看取りの支援がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	推進会議において桐生市消防本部より「命を守る応急手当」として講座を設けて頂き、受講致しました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自衛消防組織と任務分担を作成しており、各々の分担を把握している。	自衛消防組織がある。法人合同の訓練が年1回行われている。昼想定の訓練をしたが、次回は夜間想定を予定している。地域の住民にも参加の呼びかけをしている。備蓄はまだ準備していない。	年2回の昼夜想定総合訓練とグループホーム独自の避難訓練も検討してほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に合った話しかけ方や、さりげない言葉掛けや対応に配慮する。馴れ合いの中でご本人の人格を無視した対応をしないように努める。	管理者は職員に対して排泄時の声掛けの仕方など普段から指導をしている。家族の面会時には個室での対応、外出など希望に応じている。同性介護にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の話し方に合わせ、ご本人が答えやすく意思表示の出しやすいように焦らずに関わりを持つよう気をつけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方をせず、ゆっくり起床されたり、食事、入浴をして頂けるように様子を見たり、本人の希望を尋ねたりして一日を過ごして頂けるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・ご本人の好きな洋服パターンを把握し、スタッフは見守りや支援が必要な時に支援している。 ・馴染みの美容室へご家族と出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・プランターと一緒に収穫し、その野菜を使って調理、盛り付け、配膳等共に行っている。 ・誕生日などご本人の希望をお聞きし、大好物を囲んで楽しい食事を出来る事も大切にしている。	トマト、ナスなど利用者が作っている。収穫したものは料理の材料として献立にあがり、利用者は職員と共に食している。メニューは利用者の希望が反映され、誕生日の別メニュー・おせち料理、外食等でも楽しんでい	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・ご本人に合わせた嗜好を工夫し、又、重もお一人お一人に合わせている。同時に体重管理にも気をつかい、ストレスの貯まらないように工夫している。 ・水分量も状態に合わせてきちんと確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、口腔ケアを実施している。 ・月2回歯科医もしくは歯科衛生士による口腔ケアの指導を受けている。 ・毎食前、口腔体操をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・トイレでの排泄を大切にしながら、あからさまな誘導ではなく、さりげなく支援している。 ・失禁してしまった場合はすぐに入浴して不快感を増さないようにもしている。	個別の排泄のパターンを職員は記憶して排泄を大切にされた支援を行っている。一人ひとりに合った介助が行われている。臭いなどもない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・食事に繊維質の多く含む食材を使用したり、無理のないように体操したり、フロアーを遠回りに歩いたりしている。 ・お腹日誌をつけて、排泄パターンを把握したり見直ししたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・一応夕方方の入浴なっていますが、希望によりおやつ前後に入られたりもしている。 ・入浴するのが苦手な方には、話をしながら気持ちをくみ取りゆっくり誘導している。	月曜日から金曜日までが入浴日となっている。希望があれば毎日の入浴にも対応ができる。長湯希望の人、シャワー浴、足浴などでも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・足の腫みの強い方は下肢を高く、前夜よく眠れなかった方にはお昼寝を促したりしている。 ・日中の活動を把握して入床時間をその都度考慮し促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬局より「お薬について」を頂き、薬の内容を全スタッフが把握できるよう努めている。 又、母体の岩下病院と常に連携を図れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・昔ながらの趣味を生かし、折り紙でくす玉作り、繻い物をしたり、経験や知恵を発揮できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・午前中のスタッフの多い時間に散歩や買い物、プランター菜園など楽しんでいる。 ・車椅子だからと外出の範囲を狭くせず、出来る限りの移動手段を使い、戸外へ出る事が楽しくなるよう支援している。	散歩、買い物、戸外での家庭菜園など日常的に外に出る支援がされている。近所からの入所者が多いので職員は外出の機会を多く取っている。利用者の住み慣れた場所に外出している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・金銭の所持については、ご家族の理解を頂きつつ、本人の安心や満足に向けて所持・管理されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話は申し出により自由に個室で使用されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居間にはソファを置き、一人で過ごされたり、仲の良い方達との談話を楽しんで頂いている。 ・玄関、フローアーには入居者手作りの物を飾ったり、季節の花、植木を置いて一緒に手入れを楽しんでいる。	共有空間にはテーブル、椅子、テレビなどがある。壁には作品が飾られている。野菜の収穫票があり利用者の楽しみになっている。病院と併設なのでグループホームの玄関が病院の救急の出入り口と共用になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローアーでテレビを見たり、居間のソファでくつろぎ談話されたり自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	「個人の居室です」とご家族に説明し、個性のある使われ方をして頂いている。新しい物を買ってくるのではなく、馴染みの物を使って頂けるような工夫をして頂いている。	一人ひとり個性のある居室となっている。ベッドとエアコンが貸し出しとなっているが、その他持込は自由になっている。写真や筆筒、椅子、時計、作品などが持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に合わせて環境整備に努めている。物の配置に気をつけたり、読みやすい馴染みの言葉で案内やメモをしようしたりしている。		